

デジタル空間における情報流通の諸課題への対処に関する検討会

「権利侵害情報等の発信・拡散に関する検討の論点整理」について

2026年9月3日



YouTube の使命

YouTube の使命は、
**表現する場所をあらゆる人に提供し 、
その声を世界中に届ける ことです。**

Give everyone a voice and
show them the world.

YouTube が信頼される動画サービスであり続けるために

 **OPENNESS**

開かれた場であること、
表現の自由

 **RESPONSIBILITY**

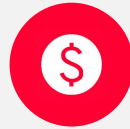
コミュニティを守る
責任

2つのバランスが大切

YouTube のポリシー



コミュニティ
ガイドライン



収益化
ポリシー



広告掲載に適し
たコンテンツの
ガイドライン

審査の結果、以下の**3通り**の措置が講じられます。



削除



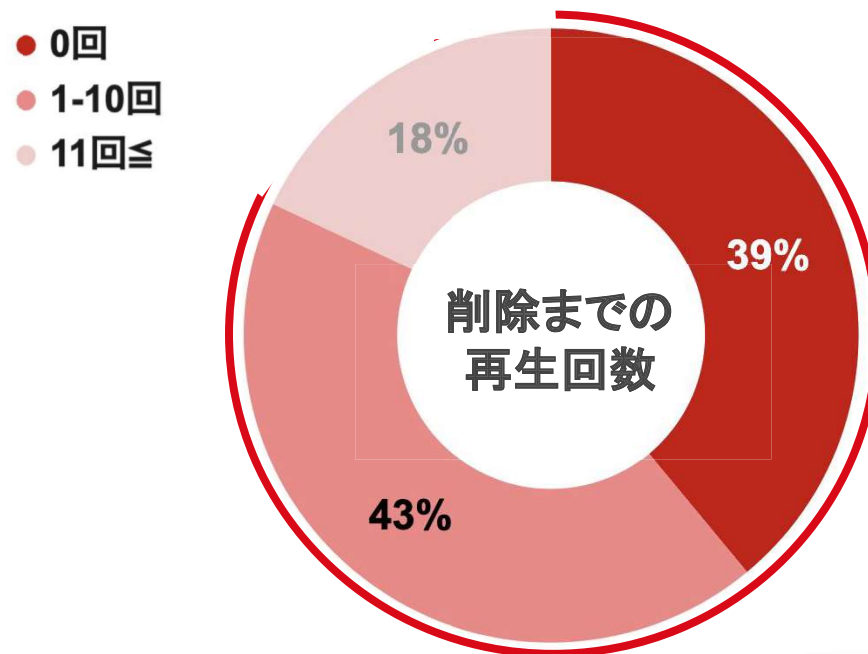
年齢制限



措置なし
(コンテンツの継続)

ポリシーに違反するコンテンツを削除

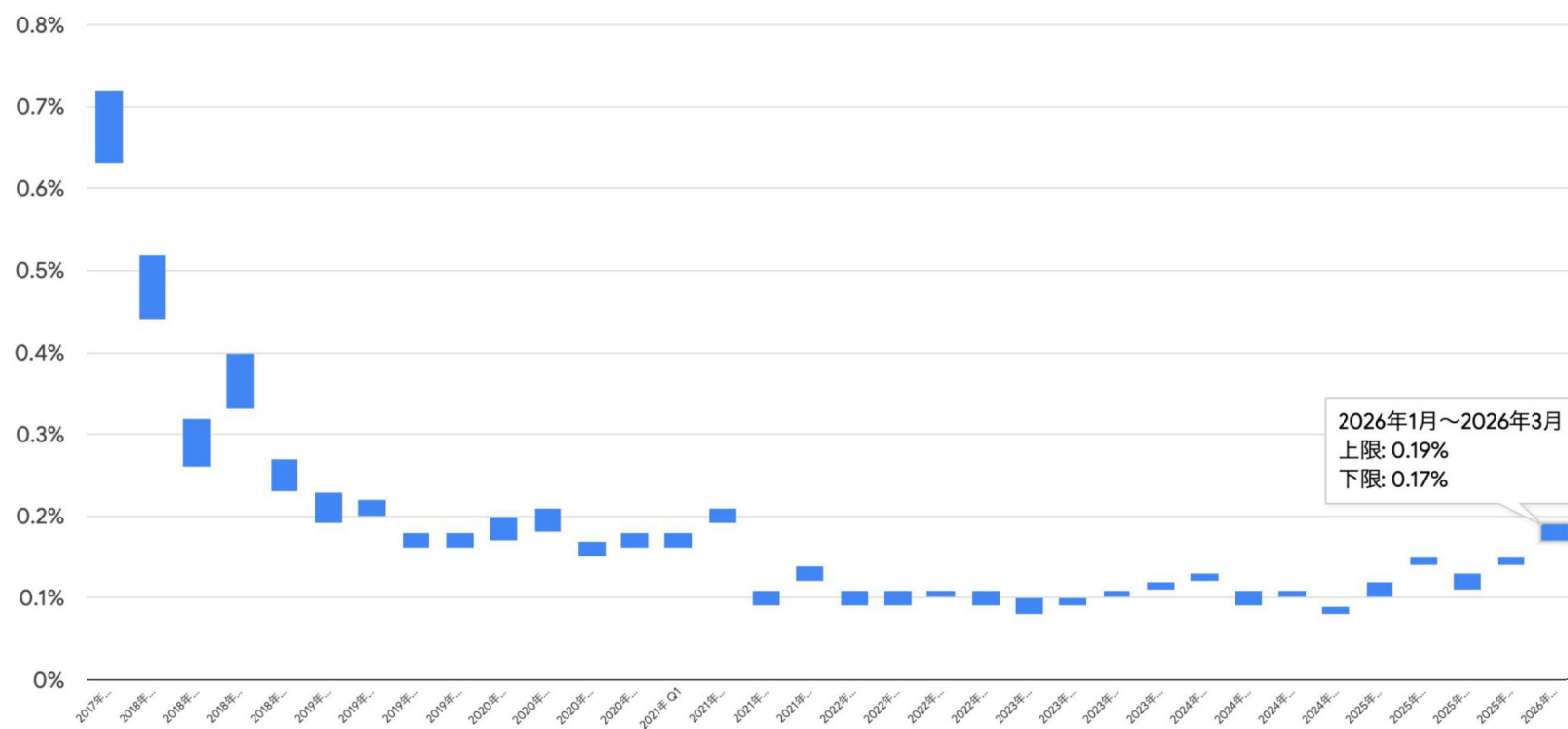
- **AI:** 問題となる可能性のあるコンテンツを特定
- **人間:** コンテンツ審査担当者が違反の有無を確認



自動検出システムの精度向上により、
約**82%**が10回再生以下で削除

[YouTube コミュニティ ガイドラインの 適用について 2026年第2四半期]

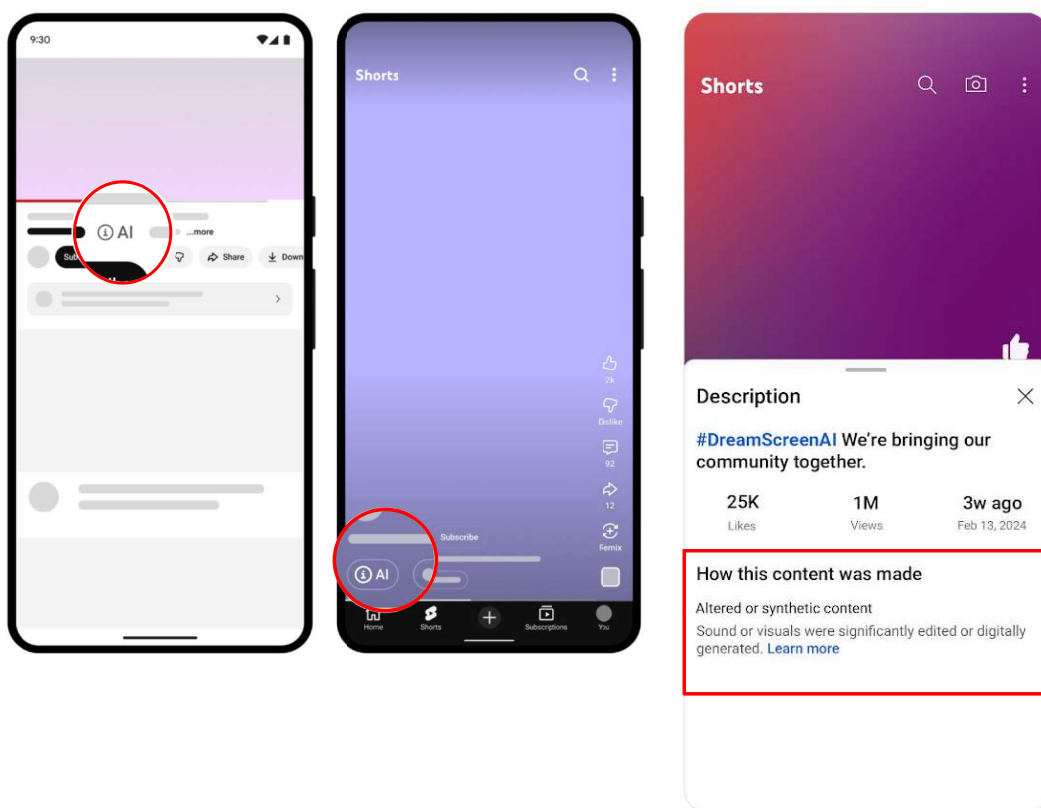
違反コンテンツ視聴の割合 (VVR) について



「権利侵害情報等の発信・拡散に関する検討の論点整理」について

- 議論の前提として
 - 権利侵害情報・違法情報・有害情報の区別が明確にされる必要
 - 事業者のサービス毎の特性を踏まえた検討が必要
- 「発信・拡散前の事業者による一定の介入は有効な選択肢」か
 - 権利侵害情報に対する介入は極めて困難
 - P8 「発信前に投稿内容をAIが分析し権利侵害情報に該当し得る場合に注意喚起を表示することは、表現の自由への制約にはならない」と断言できるか
 - DSA・情プラ法でも否定されている網羅的(一般的)監視義務を前提としており、これを認めると「発信者の表現の自由との関係で重大な問題」
 - 事実上の「検閲」の強制になりうる
- その他も含め慎重な議論を求める

生成 AI コンテンツの使用に関する開示について



- 2026年5月よりシステムが写実的なコンテンツに顕著なAI使用を検知した場合、自動でラベル付与も
- ラベルの視認性を向上（前面に表示）



ありがとうございました